

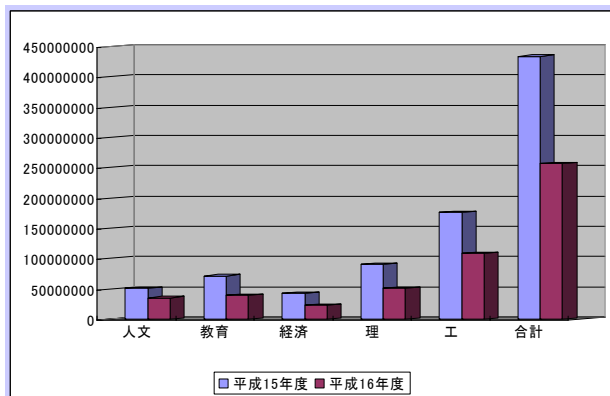
恒常的教育研究費の対前年比6割前後への削減 これでは大学の教育研究基盤は崩壊する

富山大学教職員組合

連絡先 (930-8555 富山市五福3 1 9 0 kumiai@blue.hokuriku.ne.jp)

【要旨】 本年度の恒常的教育研究費の配分が、対前年比で5～6割に削減され、大騒ぎになっている。これまで長年にわたって購読していた外国雑誌を全部廃止にしたり、文献の購入を大幅に減らしたり、自分の研究のための実験はおろか、学生の実験の費用も捻出できなくなったり、授業で使うカラーコピーの資料配付を制限したりと、大学の基本的な教育研究基盤を揺るがしている。本年度の教育研究費の大幅削減の原因は、後述するように、学長裁量経費等による校費の大幅なピンハネによるが、来年度以降、マイナス1%の効率化係数（富山大学の場合、毎年約6,000万円の削減）がかけられてくると、事態はさらに深刻になる。「本年度は、これまでの貯金（教育研究資源の蓄積）があったので何とかしのげたが、来年度以降は本当に研究がなりたたなくなる。」と事態は深刻である。

(1)



単位: 千円
平成15年度 平成16年度
(前年比) 差額
(H16-15)

(1)教育研究費配分額

人文学部	51,373	35,477 (69.1%)	▲ 15,896
教育学部	71,714	39,122 (54.6%)	▲ 32,592
経済学部	43,325	23,309 (53.8%)	▲ 20,016
理学部	91,225	51,262 (56.2%)	▲ 39,963
工学部	176,612	108,188 (61.3%)	▲ 68,424
合計	434,249	257,358 (59.3%)	▲ 176,891

(2)大学の予算総額

9,399,507 10,867,738 1,468,231 増

(対平成15年度で増加しているのは、定年退職者増による退職手当増や双方向遠隔授業システム導入予算などの特殊要因経費によるもので、基本的には前年度と同額になるように運営費交付金が措置されている)

(3)校費の総額 1,674,681 2,205,278 530,59 増

(対平成15年度で増加しているのは上述の特殊要因経費による)

(4)教育研究特別経費(学長裁量経費)

0 140,578 140,578 増

(5)学部等からの共通経費控除額

313,806 430,498 116,692 増

平成16年度増加要因

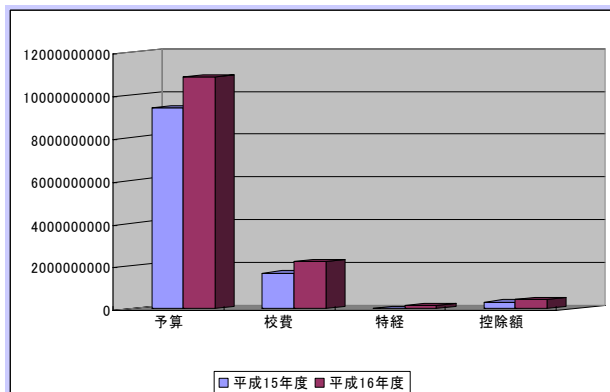
- ・競争的経費(中期目標・中期計画達成のための経費) 50,000 純増
- ・法人化対応経費予備費(人勤賃上げ分留保、損害賠償保険料) 99,190 純増

(6)学部等配分額

人文学部	90,204	72,019 (79.8%)	▲ 18,185
教育学部	159,620	126,421 (79.2%)	▲ 33,199
経済学部	102,336	78,598 (76.8%)	▲ 23,738
理学部	205,602	164,776 (80.1%)	▲ 40,826
工学部	362,700	319,402 (88.1%)	▲ 43,298
合計	1,158,753	1,000,177 (86.3%)	▲ 158,576

【解説】(6)の学部等配分額の減少分158,576千円は、(4)の教育研究特別経費(学長裁量経費)140,578千円とほぼ等しく、(1)の教育研究費の減少額176,891千円ともほぼ等しくなっている。学部段階で別途、教育特別設備費(34,400千円)を控除している工学部以外では、学部への校費配分額の減少が、そのまま教育研究費の減少につながっている。そして、学部への校費配分額の減少の原因は、今年度については、学長裁量経費等による校費からのピンハネであった。毎年恒常的に使用できる教育研究費を大幅に減額させてまで、学長裁量経費による重点配分をすることで、大学の教育研究基盤が揺らいでいる。

(2)～(5)



(6)

